

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

第一回衆議院議員選挙

日本最初の衆議院議員選挙が行われたのは、明治二十三年（一八九〇）年七月一日のことであった。

一区一人選出の小選挙区制により、全国二五七の選挙区から初の国会議員が選ばれたのである。一方選ぶほうの選挙権といえは、直接十五円以上の国税を納めている二十五歳以上の男子。そのため有権者数は人口のわずか一・一%、四五万人に過ぎなかった。

その上北海道では、この記念すべき第一回総選挙すら行われなかったのである。なぜか？ 北海道は未開の地、というのがその理由だ。

当時の北海道

北海道開拓使が明治十五（一八八二）年に廃止され、函館県・札幌県・根室県の三県一局制度を経て、北海道庁を置いたのが明治十九（一八八六）年。

その頃の札幌は、屯田兵徴募の終焉を迎えようとしていた。篠路に札幌最後の屯田兵が入植したのが明治二十二年。翌年、札幌市の人口は、ようやく二万四〇〇〇人余りになった。

土族を対象にしていた屯田兵制度は、平民へと拡大。札幌より北の空知太・美瑛・旭川・江部乙などへ、次々に入植させていく。その後も、全国各地から離農者等が移住し、北海道は移住ラッシュとなった。夕張では炭鉱が開鉱し、網走には一挙に一二〇〇人もの囚人が送られた。これが、最初の衆議院選挙が

行われた明治二十三年、全道人口四二万七〇〇〇人の北海道であった。

開発途上の地

このように、北海道はまだ未開の開発途上地ゆえに、最初の選挙制度がスタートした時には、適用除外となっていた。当時の衆議院議員選挙法には「北海道沖縄県及小笠原島ニ於テハ将来一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ適用セス」と規定されている。

北海道 歴史秘話 6

選挙

日本最初の衆議院議員選挙が行われた時、北海道は選挙の適用除外地だった。選挙が行われず、議員も選ばれなかった。その理由とは？

北海道選挙

その時の選挙権は、満二十五歳以上の男子で、国税三円以上を払っている者という限定選挙。また、立候補者は、税金を十円以上納税しているか、土地を十五町歩以上所有していることが必要条件であった。もちろん婦人参政権などあるわけも無い。この条件に合った、道内有権者数は一万二六三五人。わずか一%ちょっとの金持ちだけによる選挙であった。



それから十年。明治三十三（一九〇〇）年には人口が九八万五〇〇〇人に急増し、道内経済も著しく発展。三十四年には、「北海道会法」の施行によ

り道議会が開設されることとなり、八月、北海道初の選挙である北海道会議員選挙（任期三年、議員定数三十五人）が実施された。

さらに、「北海道地方費法」も公布され、一〇〇%国に依存していた体制から、北海道はようやく法人格を持つ地方自治体になることができた。

しかし、あくまで内閣総理大臣の指揮の下、予算の編成や執行には、い

ちいち国の決裁が必要という、自治体としてはまだまだ完全とはいえない状態であった。

一方、平出は水夫から身を起し北前船主までになった人物。箱館戦争では討幕軍の物資を運び、大いに富を得て北洋の漁業経営に力を注いだ。

そして小樽の高橋は、第一次世界大戦の頃、ロンドンの世界小豆相場を動かして財を成した人物で、「小豆將軍」と呼ばれた。

いずれもスケールの大きさを感ぜさせる北海道初の国会議員連であるが、全国的にはすでに衆議院選挙が六回行われており、七回目にしてようやく北海道から議員を送ることができた。あくまで、札幌・旭川・函館でのみ行われた変則選挙ではあったが…。

北海道全域に参政権が認められたのは、それから十七年後の大正九年。何と第十四回総選挙まで待たなければならなかったのである。

最初は変則衆議院選挙

北海道初の衆議院議員選挙は、道会議員選挙が行われた翌年の明治三十五（一九〇二）年。札幌・小樽・函館の三区のみであった。

北海道の初代衆議院議員は、札幌の森源三・函館の平出喜三郎・小樽の高橋直治。

かつて越後長岡藩士であった森は、戦死した河井継之助の遺族の扶養を藩主より命ぜられたという人格者。札幌農学校の三代目学長となった人でもある。のちに妹背牛町開拓の祖ともいわれ、かつての三井クラブ、現在の北海道知事公館の所有者でもあった。

一方、平出は水夫から身を起し北前船主までになった人物。箱館戦争では討幕軍の物資を運び、大いに富を得て北洋の漁業経営に力を注いだ。

そして小樽の高橋は、第一次世界大戦の頃、ロンドンの世界小豆相場を動かして財を成した人物で、「小豆將軍」と呼ばれた。

いずれもスケールの大きさを感ぜさせる北海道初の国会議員連であるが、全国的にはすでに衆議院選挙が六回行われており、七回目にしてようやく北海道から議員を送ることができた。あくまで、札幌・旭川・函館でのみ行われた変則選挙ではあったが…。



榎谷 泰明

さん

三角山の縄文人

私はふだん東京に住んでいますが、十年ほど前から札幌の三角山の麓で毎月の半分を過ごすようになりました。そこで近所の美術工芸家・石島しのぶ氏と知り合い、彼から耳よりな話を聞いたんです。三角山の麓にはかつて縄文人が住んでいたのです。

縄文人は私たち日本人の祖先であることは間違いないですね。原日本人と言っているでしょう。私と彼は空想を交えながら、御先祖様のことを語り合いました。そのあけく、三角山の麓で縄文講座を開こうというふうに話が進みました。二〇〇五年のこと、「北の

縄文塾」の開講です。

縄文塾の発足

いざ開講することになり、ハタと戸惑いました。私は長年、テレビやビデオの監督業を務め、縄文時代について特に勉強したことがなかったからです。図書館で目につく限りの縄文資料を読みあさりましたが、それだけでは何か心許ない気がしたんですね。

いい方策はないものか、と考えました。自分の人生を振り返って、二つの体験を思い起こしました。一つは一九七〇年代に昔話（おとぎ話）の取材で、日本国中の農村・山村・漁村を巡り、お年寄りから話を聴いたこと。いつかは

知れぬ昔から語り継がれてきた昔話では、人と動物と植物が共存していて、万物に宿る精霊たちが躍動する世界があることを学びました。

二つめは、一九八九年、五十三歳になった年から、歩き旅を始めたこと。北海道・本州・九州・四国の各沿岸を歩いて一周し、そのあと中山道、天竜川水系、日本とドイツのロマンチック街道などをすべて徒歩で旅しました。歩行距離は地球の直径ほどでしょうか。

歩き旅を重ねるうちに、自然との一体感が生まれ、心の奥底に眠っていた原初の感性がよみがえってきたようです。身体と感覚の先祖帰りの経験から、ひよっとすると縄文人もかくやと思え

てきたんですね。それが講座の支えになりました。

視えてきた縄文時代

講座は隔月で二十回続けました。その講義内容を基に、読み物ふうに話題を拡げて五月に出版したのが『縄文の森へようこそ』『糸と精霊のおとぎ話』です。糸は造語ですが、何と読むか、お分かりですか？（答えは本のはじめの方に書いておきました）

さて、講座を継続するには、それなりに勉強しなければなりません。東京と札幌の図書館で縄文関係の文献を調べ、あたかも受験生が参考書をひもとくような調子で頭に詰め込みました。だんだん縄文時代が視えてきました。

土器や土偶からうかがえる独特な文化様式、豊かな食生活、広い交易範囲、遠い遠い地域からの人々の往来、そして何よりも戦争という愚行には決して走らなかった、というたおやかな暮らしぶり……、現在とはまるで異なる御先祖様たちの有り様を知って、うれしくなりましたね。しかも、その時代は一万年以上も続いたんです。北海道では次の時代の弥生文化が上陸しなかったために、もっと長く続きました。

文明との距離

エコロジが問題になっていますね。地球環境が何やら危つくくなって……、私はこの問題を考えるのに、ジョウモンが良きヒントになると思っています。かの縄文人たちの悠然たる生き方が、

余計なものを身にまといき、不自然に肥大してしまった現代人に反省をうながしている、そう思えてならないのです。

今さら縄文時代に逆戻りすることはできない、それはそうです。電気のない生活、石油のない生活、現代人がそれを受け入れることは不可能でしょう。とはいえ、現代文明が行き詰っていることは誰の目にも明らかとなり、何とかしなければ、という思いがつのっている今こそ、かのジョウモンから学び、彼らの生活ぶりの一端なりとをも実践することが、お先真暗でくたびれ果てた現代人を元気にさせる一つの手立て、重要なポイントだと思わざるを得ません。

そのようなメッセージ、つまり文明批判と人間回復の提言は、日本だけでなく、全世界に発信すべきと考え、拙著には英訳を併記しました。

しかしまあ、難しいことは程々にしましょうね。私の立場はあくまでもおとぎ話の側にあり、嘘のような本当のような、本当のような嘘のようなおとぎ話の世界に、しばし心を遊ばせていただけると、望外の幸せです。

榎谷 泰明

はにかいやすあき

一九三五年 北海道生まれ。早稲田大学文学部演劇専修卒業。フリーの脚本家・演出家。映画・テレビ・ビデオ・舞台劇の構成・監督。口承文芸（民話）の記録文学化。事典・辞典の編集。紀行作家。『北の縄文塾』塾長。『人間の足跡をたどる会』たどる人。所属：日本文藝家協会会員／日本脚本家連盟／日本放送作家協会員

MY OLDIES

あのころの 学校新聞

治・社会問題を論ずる、僅か一つか二つ違いの先輩が随分と大人に見えるものだ。

古い話で恐縮だが、高校時代に私は「新聞局員」であった。「部員」ではない。「局員」である。心地よい響きに聞こえたものだった。

地方都市にある我が母校の野球部は何度か甲子園に出たことがある。いわば部活の花形である。当然他のクラブより予算の割り当ては多い。ところが我が局はその野球部に匹敵する年間予算を確保していた。

写真入りで部活紹介欄に掲載されることを期待し、各部の部員は概して我が局の取材には好意的であった。確かブランケット判で、年に四回程度発行していたのだろうか。少なくともその内一回は四頁立てであった。印刷は札幌のK印刷にお願いしていた。オフセットもあったのだけれど、新聞は活版組版であった。

大きな声では言えないが、女性の先輩に憧れて入局した当時の私に大した主義主張はなかった。だから政

この当時、北海道新聞社主催の「高校新聞コンクール」があった。我が校は過去に幾度か受賞の栄に浴した実績があった。予算を維持できた理由のひとつだろう。

さて、私も学年が上がり、憧れの先輩との悲しき別れを経て、責任ある立場になった。この時期私にはうれしい変化が訪れる。それは出張校正のため、大っぴらに札幌へ行けるようになったことである。年に少なくとも四回ほど発行するのだから、公休を取り、札幌に遊びに、いや校正に行けるチャンスがそれだけあるということだ。

お付き合いしていたK印刷は数多くの学校新聞を手がけており、生意気な子どもたちへの対応は慣れていたようだ。私達はそれなりに訓練を受け、きっちり割り付けし、字数を合わせて見出しも考えていたつもりであった。しかし校正に向き、用意されたゲラを見ているとどうしても

手を入れたくなる。

本文の字句の差し替えならともかく、地紋入りの見出しを変えたと凸版の作り直しである。時にはレイアウト自体をいじるといふ乱暴なことをしたこともあった。DTPの現在でも響盛ものである。植字の担当者たちの気持ちは今も痛いほど分かる。

悪ガキたちは要求を出し尽くし、訂正ゲラができるまで、好意で用意されたラーメンを食し、我が物顔で社員娯楽室の卓球台で無駄なエネルギーを発散させていた。そんな私達にK印刷の皆さんは親切に対応してくれた。今思い起こすと赤面の至りであり、申し訳ない気持ちで一杯だが、私には懐かしい青春の記憶となっている。

ところで、高校を卒業して十数年後、東京で企画されたコンピュータ組版設備の宿泊研修で、偶然にもK印刷の現場の方たちと一緒する機会があった。もちろん当時の担当者ではないが、私はことのほか低姿勢で丁寧な対応をしたと記憶している。

(Y)

BOOK INFORMATION

ちょっと気になる一冊 受書紹介

「間取りの手帖」

佐藤和歌子 著

リトル・モア刊

定価九五〇円(税別)

二〇〇三年

四月十六日発行



間取りの雑誌やチラシを眺め、こんな部屋に暮らしたら、こちらにこの家具を、あちらにあの家具を。この立地条件でこの値段とは！などと思いをめぐらす事が好きな人も多いのではないのでしょうか？ かく言う私もその一人。

最近部屋雑誌でも間取りが掲載されている物も多く、なるほど、とヒントを貰う事も多い。ですが、「観音開きフエチ」堅気には使えない……などなど。

「うより「なんじゃこりゃー!」と思う物件が全て。ええ全くもって全力投球で、全です。」

こんな部屋に住む人がいるのだろ
うか？ そもそもこの間取りは誰かが勝手気ままにおフザケで書いて楽しんでるものなのでは？ と思って読み進めましたが、どうやら普通に賃貸されている部屋しか載せていないようです。

読み進めると言っても、一頁に一つの間取りと、その下に作者のコメ

頁をめくるたびにおかしな部屋が現れ、まるで想像力を試されているかのよう。これは普通の部屋では？ と思った間取りでも、その難易度の高い奇妙さ加減に、コメントを見てハッと気づいたりもするのです。まさに絶妙すぎるバランス！

そしていつしか、間取りの雑誌を手にも、自身でも妙な部屋を探したくなっているのです。

(K・M)

短波。長い夏に夜

カルチャーナイトで、いつもと違う発見体験！

短い夏の夜を有意義に

日が暮れてから街へ出かけるのは、ネオン街に繰り出すためばかりとは限らない。意外な楽しみ方をご紹介します。

今年で七年目を迎える『カルチャー

ナイト2009』知っているようで、

知らない方もまだ多いようだ。北欧デ

ンマークのコペンハーゲンが発祥の地

で、公共文化施設や民間の施設を夜間

解放してもらい、市民に新しい視点か

ら、地域の文化を楽しんでもらおうと

いうイベントだ。夏が短い北欧なら

はのユニークな試みといえる。これを

同じ北国の札幌にも導入したのが『カ

ルチャーナイト』である。

北国の短い夏の夜の一夜を、地域の

住民はもちろんのこと、親子で、夫婦

で、あるいは恋人同士、観光客の方々

にも参加していただいて、ふだん日中

には見られない、いろいろな施設の夜

の顔を楽しむことができる。

たとえば、中央図書館ではファミリー

向けのおはなしの会、道警察本部なら

白バイやパトカーの試乗体験なんて、

ワクワクするものもあり、夜の静寂の

中の美術館や教会コンサート、朝の喧

騒とは打って変わって、静まり返った卸売市場などの見学ツアーなど、昼間とはまったく異なる雰囲気体験できるかもしれない。もちろん、動物園や水族館での夜の顔を見せる、生き物たちの生体観察は最近では、定番の人気スポットになりつつある。

さらに公共施設ばかりではなく、百貨店やショッピングモールも参加し、楽しい夜の企画が用意されている。

夜の銀行はどんな顔？

およそ公共の建物というのは昼間利用することがほとんどで、夜はシルエツトになった外観くらいしか目にすることはない。照明や月明りの中で見ると、これらの建物は特別な体験とともに、あなだにまったく別の空間を提供してくれるはずだ。

本稿が掲載になるときはもう、間に合わないかもしれないが、このイベント事務局では毎年、運営ボランティアも募集している。案内係、受付、レポート提出、パンフレット配布など来年はお手伝いに参加したいという方は、連絡してみるといいだろう。

今回も開放される施設はおおよそ100カ所余りで、ひとつひとつ紹介し

たいのはやまやだが、誌面が足りないで詳細はホームページで検索していただくか、配布されているパンフレットで見てください。さらに前夜祭として七月十六日木曜日の夕方からは、道庁赤レンガ庁舎でのイベントも楽しみ。

関連グッズもチェックしよう！

カルチャーナイトに関しては、お子様もいっしょに楽しんでもらえる絵本や、CD、Tシャツなども販売しているので合わせてチェックしてみてください。

PRコピーで謳っているように、ふ

だん見えないものが見られ、ふだん聞

けないものが聞ける、ふだん行けない

所に行け、ふだん話せないことが語り

合える。そんな夏の夜の『ふれあい』

チャンスにぜひしてほしい。

* * *

『カルチャーナイト2009』概要

■二〇〇九年七月十七日金曜日

午後五時半から十時まで

施設によって多少違いあり。

■主催／カルチャーナイト実行委員会

■お問い合わせ

カルチャーナイト実行委員会事務局

〒〇六〇一〇〇〇四

札幌市中央区北四条西七丁目

緑苑第二ビル七〇七号室

TEL 〇一一二六二一六六三三

FAX 〇一一二六二一五一六九

E-mail: culturenight@erbo.ocn.ne.jp

URL: http://www.i3.ocn.ne.jp/~c-n/

「心に響く…」

北のハート100選 大募集

うれしかった、あの時あの人のひとこと

思い出だけでころがあったかくなる体験

あなたの「教訓」「感動」した「小さな出来ごと」

を募集しています

最優秀賞「北海道知事賞」(一名) 三十万円

優秀賞(各部門一名) 各十万円

佳作(各部門三名) 各三万円

●応募部門：(一)一般・学生部門 (二)生徒・児童の部門

●応募資格：北海道現在住者に限ります

●応募条件：あなた自身の体験で未発表のもの。一人一点とします。ハ〇〇〜一〇〇〇〇字、郵便番号・住所・氏名・年齢・職業(学生は学校名と学年)・電話番号を明記。

●応募締切：平成二十一年八月三十一日(月) 必着

●発表：平成二十一年九月中旬。

●表彰式：平成二十一年十月十八日(日)

●審査委員長：木原直彦(文芸評論家) 審査委員：田中和夫(作家、久住邦晴(北海道書店商業組合理事長)、岡部康彦(北海道印刷工業組合理事長)、福島博志(㈱日本グラフィックサービス工業会北海道支店長)、池田哲(株式会社サクマ取締役会長)

作品提出先・お問い合わせ

「心に響く」北のエピソード 実行委員会

〒〇六四一〇八〇八 札幌市中央区南八条西

六丁目北海道印刷工業組合内

TEL 〇一一二六二一六〇七〇

FAX 〇一一二六二一六〇七二

http://www.print.or.jp

■編集部から 小誌33号の北海道歴史秘話で感受性豊かな縄文人文化を紹介。今号、悠々人語録に登場していただいた篠谷泰明さんは「縄文の森へようこそ」(5月出版)で一万年以上続いた縄文文化の素晴らしさを学術のお堅い文体ではなく、おとぎ話のようにやさしく語りかけている。あとがきの行に「縄文から学び、その生活ぶりの一端なりともを实践することが、疲弊した我々を蘇生させる一つの手立てになるのではないだろうか」。縄文人の特定の食糧に偏らない自然と調和した暮らしから我々は学び、次世代に伝えたい。(K)



●発行・編集／中西出版あうる編集部
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
TEL (011) 785-0737 FAX (011) 781-7516
URL: http://owl-online.jp
E-mail: owl@nakanishi-shuppan.co.jp

●発行責任者／林下英二

●発行日／2009年6月10日 ●デザイン／上野修一



ホームページへ
アクセス！